

美しき歌声

～新春に因んで

理事長 土師 壽三

毎年恒例のNHK新春オペラコンサートを楽しみにしている。一九五一年から続いているから今年でもう七十年を超える歴史がある。オペラといわれてなじみのない方でも、「藤原歌劇団」といえば、思い当たる方もいらっしゃると思う。まぎれもなく鍛えられたマエストロたちの美声こそ、輝かしい年の初めにふさわしいものだ。

佐藤しのぶ

歴代のソプラノ歌手のなかでも、六十一才で旅立たれた佐藤しのぶさんは超絶もので、群を抜いている。紅白歌合戦にも四回出場し、オペラや声楽家の存在をあらためて世に広く知らしめた方だ。早春賦、慕情、荒城の月、アヴェマリアなど、美しく、愛おしい歌声は何度でも聞きたくなる。

朱から赤へ

「朱に交われれば赤くなる」ということわざがある。声楽にしる、クラシックにしる、絵画にしる、秀でたもの、一流のものに折々に触れて、内面から自分を高め、自分自身を朱から赤へと染めあげて、ひいては周りの人を感化したいものだ。

清く、正しく、美しく、卓越性を際だたせ、「あなたとお近づきになると私も上品（じょうぼん）になります」とご縁のある方に云わせたいものだ。それこそが生きる妙味ではないか。